



国際アグリバイオ事業団 アグリバイオ最新情報
2015年4月

世界

生の声と目：遺伝子組換えが大切なわけは？

ゴールデンライスプロジェクトが人道特許賞 2015 を受けた

国際アグリバイオ事業団 (ISAAA) のネットワーク会議が世界的なバイオテック情報共有を強化

アフリカ

ルワンダで作物品種開発を保護するための新法律草案

アフリカの関係者がブラジルの遺伝子組換え圃場見学ツアーを実施

ナイジェリアは、バイオセーフティ法律に署名し、遺伝子組換え国の仲間になった

南北アメリカ

遺伝子組換えサトウキビが最初の圃場試験でよい結果を得た

下院委員会の農業の公聴会で GM 作物の支援を証言

GM ユーカリがブラジルで商業使用が承認

アジア・太平洋

オーストラリア農業バイオテクノロジー評議会 (ABCA) が国会に GM ガイドを公表

フィリピン農業生産者は、BT ナスの商業栽培を熱望している

ベトナムの農業生産者に遺伝子組換え (GM) トウモロコシ種子が導入された

農業大臣は南オーストラリアでの GM 作物のモラトリアム止めるように提唱

北海道農業者の会が遺伝子組換え (GM) 作物の圃場試験の要望書を提出

研究

遺伝子組換えマメ品種 EMBRAPA5.1 の栄養価は、相当する非遺伝子組換え品種と等価である

文献備忘録

遺伝子組換え作物の導入と採択経路

バイオテクノロジー情報センター (BICs) から

日本の農業生産者が遺伝子組換え (GM) 作物を支持する要望書に署名

世界

生の声と目：遺伝子組換えが大切なわけは？

世界で遺伝子組換え技術は、どんな位置にあるのか？そのインパクトは？このような疑問に「生の声と目：遺伝子組換えが大切なわけは？」と題する ISAAA の最新報告書で遺伝子組換えの専門家、農業生産者、経済学者、報道関係者が答えを出している。最新報告書は、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ、イギリス、ベルギー、米国からの 150 の代表が出席してケニア、ナイロビの Safari Park Hotel で 2015 年 4 月 13 日に行われた農業バイオテクノロジーとバイオセーフティに関する広報活動に関する国際会議で公表された。

ISAAA 報告書 50 は、遺伝子組換え技術の発展を検証し、しかもそれが生活の質を向上させる上で重要な役割を果たしていることを確信した世界各地からの 32 人の論文の集大成である。これらの個人に対して ISAAA バイオテクノロジー情報ネットワークを通して、面談あるいは電子メールでインタビューを行った結果である。報告書は、作物バイオテクノロジーに関する世界知識センターディレクターの Mariechel Navarro 博士が編集したものである。



報告書は、貧困と飢餓に対する課題に対し 2000 年に設定した 100 年計画を記念するものとして公表された。

この報告書は、[Brief 50 from the ISAAA website](#) から入手可能である。

ゴールデンライスプロジェクトが人道特許賞 2015 を受けた

科学技術政策に関するホワイトハウス事務局と米国特許商標庁 (USPTO) は、ゴールデンライスプロジェクトに人道特許賞 2015 の特許を授けた。この賞は、医学、公衆衛生、自給エネルギー、生活水準、および栄養の分野で世界の恵まれ必要なものが満たされない人々を救う技術をもたらした特許の所有者に与えられている。

ホワイトハウスで 2015 年 4 月 20 日に与えられた賞は、ゴールデンライス (GR) の共同発明者 Ingo Potrykus と Peter Beyer、および GR 特許でベネフィットを小規模農業者が受けら

れるようにプロジェクトを設定した GR 人道委員会事務局長 Adrian Dubock に対してホワイトハウスで 2015 年 4 月 20 日に与えられた。

IRRI のメディアリリースによると「ゴールデンライスで使用されている重要な技術を無料で使用できるようにしたことで IRRI や公的機関が非営利をもとで研究開発を継続できた。このような使用料なしでゴールデンライスを既によく使われている品種との育種を進めることで資源に乏しい農業生産者が種子を入手し、さらに再利用も可能になる。」

詳しくは、以下のサイトをご覧ください。 [Golden Rice news](#) と [IRRI media release](#).

国際アグリバイオ事業団 (ISAAA) のネットワーク会議が世界的なバイオテック情報共有を強化

2015 年 4 月 15-16 日にケニア、ナイロビ、Safari Park Hotel でバイオテクノロジー情報センター (NBICs) の ISAAA 第 15 回年次総会を開催した。会議には、[ブルキナファソ](#)、東・中央アフリカ、エジプト、[インド](#)、インドネシア、イラン、マレーシア、[パキスタン](#)、[フィリピン](#)、ウガンダの 10 カ国から 29 名の代表メンバーが参加した。

ISAAA グローバル・コーディネーター兼 SEAsiaCenter ディレクター Randy A. Hautea 博士が歓迎の言葉を述べ、この組織をより強く、よりダイナミックにして持続可能性を高めるための様々な機会をとらえるように参加者に訴えた。一方、ISAAA KC 所長 Mariechel J. Navarro 博士は、メディアやオンラインリーチの増強、新しい出版物、そして農業者の導入状況調査を通しての KC の成功を提示した。同様に、各バイオテクノロジー情報センターがその 2014 年の活動を報告した。ケニア科学技術省上級研究官 Roy B. Mugiira 博士が科学に基づいたバイオテクノロジーの情報を普及におけるそのネットワークが果たした役割とそのインパクトを賞賛した。さらに東・中央アフリカの国々における農業バイオテクノロジー、[バイオセイフティー](#)研究、政策、教育、[コミュニケーション](#)の取組み、国民の意識についての概説を行った。

ISAAA 理事長 Paul S. Teng 博士と上級プログラムオフィサー Rhodora R. Aldemita 博士がネットワークの活動の重要点、バイオテクノロジーメッセージの強化、持続可能な資金調達構築に関するワークショップや企画セッションの進行を行った。会議はまた、初めて 3 つのセンター (AmeriCenter、AfriCenter、SEAsiaCenter)、作物バイオテクノロジーの進歩を受け入れる環境を構成するためにに関するグローバルナレッジセンター (KC) が集まり、どのように ISAAA がバイオテクノロジーに関する知識に対応し、それらを共有するために働き、それぞれの国で作物バイオテクノロジーを導入するようになれるかを議論した。



詳細は、SEARCA BIC の Sophie Mercado 氏に以下のサイトで連絡を取って下さい。
smm@searca.org

アフリカ

ルワンダで作物品種開発を保護するための新法律草案

法律草案は、国の新しい作物品種の開発を支援するルワンダ農業委員会（RAB）によって起草された。RAB 種子部門の Gervais Nkuriza Ngerero 局長によると、法案はルワンダの研究者が開発した植物品種を保護するためのものである。「ルワンダは、ケニアなどの国に輸出して鉄分豊富なマメの品種を開発しました。制作権法があれば、誰もがその発見を主張できない。植物品種保護法があっても品種を供給してくる。」と Ngerero 氏が語った。

また、ルワンダ開発局（RDB）Blaise Ruhima Mbaraga 氏は、法律は、農業生産性と業界の発展につながるよりよい作物品種を開発する研究者を奨励することになると述べた。

詳しくは、以下のサイトをご覧ください。 [African Farming.](#)

アフリカの関係者がブラジルの遺伝子組換え圃場見学ツアーを実施

ISAAA AfriCenter は、EMBRAPA-ブラジルの農業研究公社とアフリカ・ブラジル市場のプロジェクトを実施している SCIFODE がブラジルへの見学旅行を開催した。アフリカ 5 カ国（ブルキナファソ、ケニア、モザンビーク、ナイジェリア、ウガンダ）からの 29 名の参加者があった。アフリカバイオセーフティ・ネットワーク（ABNE）は、ツアーの共同主催者として関与していた、ブラジルへのスタディツアーを開催しました。5 アフリカ諸国（ブルキナファソ、ケニア、モザンビーク、ナイジェリア、ウガンダ）から 29 人（29）参加者がツアーに参加しました。アフリカのバイオセーフティ・ネットワーク（ABNE）もツアーの共同主催者として関与した。

これらの国々は、遺伝子組換え作物、特に遺伝子組換えダイズを導入することで、生産を増大させる大きな可能性を持っている。しかし（ブルキナファソ以外は、バイオセーフティ論

議のために導入がきわめて遅れているか、技術の安全で責任ある利用が止まっている。アフリカは遺伝子組換え作物、特にダイズについての規制及び承認と導入についてブラジルの経験から多くのことを学ぶ位置にある。ブラジルのバイオセーフティ規制プロセスは、課題がなかったわけではないが、今日、ブラジルは、2005年にバイオセーフティ法（11.105 / 05）を制定して、ブラジルでの様々な遺伝子組換え作物の商業化を可能にし、4220万ヘクタールを栽培し、世界で米国に次ぐ遺伝子組換え作物の第二位の生産国になっている。

このように、見学ツアーの目的は、バイオセーフティ規制プロセスにおける既存の膠着状態を解除するためにアフリカ諸国とブラジル間の経験の交換を容易にすることである。これは、農業の生産性を高め、最終的に食料不安を減少させる可能性を秘めた組換え作物の導入が可能になる科学に基づいたコスト/時間対効果の高いバイオセーフティ規制制度の制定に影響を与えることを期待されている。

参加者は、ダイズ栽培農業生産者、育種家、規制当局、政策立案者とダイズ加工民間企業の代表が含まれていた。チームは農業生産者と世界で遺伝子組換え作物の第三位の生産国であるアルゼンチン農業省役人の公式も参加した。参加者は、Londrina 郡にある大規模および小規模の遺伝子組換えダイズとトウモロコシ農業生産者の両方を訪問し、はっきりと遺伝子組換え作物の利点を挙げた農業生産者と徹底的な議論を行った。農業生産者は、作物の収量増加と品質、生産コストの削減について話した。彼らは、また Cocamar 協同組合、Maringa 郡で最大の農民協同組合の1つを訪問した。協同組合は、農学的生産、市場価格での参入、農業生産者の製品の購入することなどを訓練することで中小規模農業生産者への支援を行っている。



参加者は、EMBRAPA を訪問し、遺伝子組換え作物研究者と交流し、研究の現状をから詳しく説明を受けた。

詳しい情報は、以下のサイトで Faith Nguthi 博士と連絡を取ってください。

fnguthi@isaaa.org.

ナイジェリアは、バイオセーフティ法律に署名し、遺伝子組換え国の仲間になった

Goodluck Jonathan 大統領が、2015年4月21日（月曜日）に、バイオセーフティ法案に署名し、ナイジェリアは、遺伝子組換え国の仲間になった。国立バイオテクノロジー庁長官が署名したニュースリリースをみて、Lucy Jumeyi Ogbadu 教授は、国立バイオセーフティ法はナイジェリアの近代バイオテクノロジーの管理において重要であり、しかもこの法案が政府がよい注目を集めることで、より雇用を創出し、食糧生産を後押しすると述べた。

ニュースリリースには、「バイオセーフティ法は国の近代バイオテクノロジーの活動をチェックするための法的枠組みを提供するだけでなく、ナイジェリアの遺伝的組換え（GM）作物の輸入ができるようになり、様々の分野のナイジェリアの科学者/異なる分野からの専門家地域の課題に対する解決策を追求する道を開くことになる。」と述べている。

バイオセーフティ法はまた、事前合意（AIA）に基づく遺伝的に改変された生物（GMO）の意図的なリリースを基本としている。署名した法律は、以下の事項に対処する事になる。

1. 違法行為に対する処罰と罰金
2. 遺伝子組換え作物の開放と現代のバイオテクノロジー実践の承認
3. 遺伝子組換え作物の開放利用、取り扱い、利用前のリスク評価/管理
4. 食品/飼料および処理を含むそのすべての遺伝子組換え生物/遺伝子組換え生物（LMO）や製品を扱う。と
- 5 リスク評価における. 社会経済考察

アフリカでのバイオセーフティ規制は、多くのアフリカの国々が遺伝子組換え作物の利用を承認するにつれて、急速に動いている。南アフリカ、ブルキナファソ、ガーナ、エジプトは、バイオセーフティ法律があり、一部は現在、GM作物（南アフリカ、スーダン、ブルキナファソ）を栽培している。バイオセーフティ法がある国には、ケニア、トーゴ、タンザニア、マリが含まれている。

詳細については、Rose M. Gidado 女史と以下のサイトで連絡を取って下さい。
roxydado91@gmail.com。また、アフリカの農業バイオテクノロジーについての詳細を知るためには、以下のサイトで Margaret Karembu 女史と連絡を取って下さい。
mkarembu@isaaa.org。

南北アメリカ

遺伝子組換えサトウキビが最初の圃場試験でよい結果を得た

農業バイオテク会社 Ceres は、遺伝子組換えサトウキビが最初の圃場試験でよい結果を得たので前倒しで次のステージに移動したことを報告した。最初の圃場試験は、熱帯の条件の下で、ラテンアメリカで行われた。優良品種は現在、2015年5月と6月、に開始が予定されているより大きい規模での圃場試験のために増殖中である。

Ceres によると、優良熱帯のサトウキビ品種は、成長を加速し、バイオマスが増加している。さらに、乾燥耐性の形質を有する品種は、低水分条件下でバイオマス収量を維持し、場合によっては、製造時に必要な水の量のわずか 50% で同じ収率を維持した。

ニュースリリースは、以下のサイトにある。 [Ceres' website.](#)

下院委員会の農業の公聴会で GM 作物の支援を証言

ワシントン D. C. で 2015 年 3 月 24 日に行われた米下院委員会農業の公聴会で 6 人の証言者が全て GM 食品の表示義務 に反対した。ほとんどの証言者は、GM 作物が農業生産者に利益 をもたらすことを証言した。彼らはまた、表示が農業生産者、製造業者、消費者の追加費用になると述べた。

OFW 法の上級科学顧問兼元国務長官 Condoleeza Rice 氏と Hillary Clinton 氏の科学技術顧問の Nina Fedoroff 氏によると、ほとんどの米国の消費者は、GE 食品が安全でない としているがこれは「アンチ GMO 活動家が大衆に GMO は悪いものとの言葉に影響されたもの。」としている。食品に GM の表示 を追加しても消費者が安全性について意味のある区別をする助けにはならない。その理由は、「市場に今ある GM 食品がその対応する非 GM 食品と同様に安全であり、その栄養価も同等である。」と彼女は強調した。

現在、FDA は、食品メーカーが遺伝子工学により開発されていないかどうかを任意表示する事を指示している。

詳しくは、以下のサイトをご覧ください。 [the testimonies of the witnesses at the House Committee on Agriculture website.](#)

GM ユーカリがブラジルで商業使用が承認

ブラジルバイオセーフティ技術委員会 (CTNBio) は、Suzano Pulp and Paper の完全子会社の FuturaGene が開発した贈収量の 遺伝子組換え (GM) 商業的利用を承認した。2006 年から ブラジルの様々な場所 で実施してきた圃場実験で相当する従来種に比べ収率の約 20% の増加を示した。

これは世界的に承認された最初の GM ユーカリ品種であり、1990 年代初期におけるクローン性技術の採用以来、再生可能な植林業界にとって最も重要な生産性のマイルストーンである。この承認は、より少ない資源を使用して、より多くの繊維の製造を可能にすることにより、持続可能な森林管理のための新しい時代の始まりを示すものである。ブラジルはこのような技術で完全な開発サイクルを遂げた最初の国である。

FuturaGene の CEO Stanley Hirsch は、贈収量 GM のユーカリは、2001 年から開発が進められ、商業の承認を申請する前に大規模な バイオセーフティ評価 を受けていると述べた。詳細については、以下のサイトでニュースリリースをご覧ください。 [FuturaGene website](#)

アジア・太平洋

オーストラリア農業バイオテクノロジー評議会 (ABCA) が国会に GM ガイドを公表

オーストラリア農業バイオテクノロジー評議会 (ABCA) がオーストラリア、キャンベラで行われた第 15 回年次科学会議で農業バイオテクノロジーと遺伝子組換え (GM) 作物の公式オーストラリア指針の第二版を公表した。

最新改訂出版物は、科学的証拠に基づいて、遺伝子組換え作物に関する事実情報の最新版である。科学、実能力、安全性、GM 作物規制だけでなく、製品パイプラインおよび商業と市場の現状などさまざまなトピックを収載している。ABCA によると、ガイドでは、実際に GM 作物を使用する農業生産者に生の声を伝え、更に飼料、アグリバイオ研究機関、食品の安全性に関する共通の質問にも答えている。

報告書は、以下のサイトからダウンロードできます。 [ABCA website.](#)

フィリピン農業生産者は、 Bt ナスの商業栽培を熱望している

Camarines Sur 州の様々の町の約 100 人の農業生産者だけでなく、地域農業の役員、教職員、学生、Central Bicol State University of Agriculture (CBSUA) の教職員からが、Pili, Camarines Sur の CBSUA で 2015 年 3 月 27 日に開催された Bt ナス (University of the Philippines Los Baños (UPLB) が開発した果実やシュートボラー抵抗性の Bt ナス) に関する公聴会でその科学、安全性、および潜在的な利点について啓発を受けた。

CBSUA と農業・バイオテクノロジー情報センター大学院研究と研究のための東南アジア地域センター (SEARCA BIC) 共催で行われたこの公聴会は、遺伝子組換え作物の食料と環境安全上の問題や懸念を明らかにした。ISAAA グローバル・コーディネータ兼 SEAsiaCenter ディレクター Randy Hautea 博士が 2014 年における世界的な遺伝子組換え作物の状況とその影響の概要を説明した。一方、UPLB の Bt のナス研究リーダー Lourdes Taylo 博士が Bt ナスの科学的背景、開発、および現状について話した。UP マニラの Jinky Leilani Lu 博士と UPLB の Cesar Quicoy 博士は、健康影響に関する研究、環境、およびの Bt ナスの社会経済的な影響を議論した。UPLB-植物育種研究所助教 Eureka Ocampo 博士は、遺伝子組換え作物の食品の安全性を説明した。農務省植物工業局の遺伝子組換えバイオコアチームの副議長 Merle Palacpac 女史もフィリピンバイオセーフティシステムについて説明した。



Edwin Castañeda, president of the Libmanan Vegetable Growers Association in Camarines Sur province, Philippines, sign the declaration of support for the commercial planting of Bt eggplant in the country.

講演後、農業生産者や他の関係者が Bt ナスの商業栽培を支持する声明に署名した。文書には、その潜在的に重要なヒトの健康、環境における影響、および社会経済上の認識、および厳格なリスク評価を通じた安全性が述べられている。

フィリピンのバイオテクノロジーに関する詳しいニュースは、[SEARCA BIC](#)にある。

ベトナムの農業生産者に遺伝子組換え (GM) トウモロコシ種子が導入された

Dekalb Vietnam 社は、農業生産者に遺伝子組換え (GM) トウモロコシ種子を導入するために南部の Dong Nai 州で最初の総合的知識移転を開始した。このプロジェクトは、ベトナムの農業生産者に生涯で初めて、雑草管理と昆虫抵抗性形質を有する種子を使用してトウモロコシを栽培することを目指している。農業生産者は、優れた生産力を獲得し、農業管理がより安定して利益を上げることが仲間の多くの農業生産者にこれらの知識を移転する事を期待している。

ベトナムで初めて自分の畑に遺伝子組換え (GM) トウモロコシを栽培する Nguyen Hong Lam 氏は、「自分自身の経験からみて従来のトウモロコシ種子と遺伝子組換え (GM) トウモロコシ種子は、量は同じだが、質がよい。」と言った。彼はまた、GM トウモロコシ種子を育てることで農薬、除草剤の費用、労働費の削減は、ヘクタール当たり 3 百万 VND (ほぼ 150 ドル) と推定している。

詳細には、以下のサイトをご覧ください。 [Vietnam Investment Review](#)

農業大臣は南オーストラリアでの GM 作物のモラトリアム止めるように提唱

連邦農業大臣 Barnaby Joyce 氏は、南オーストラリアに遺伝子組換え作物のモラトリアム止めるように求めた。Adelaide の農業ビジネスリーダーとの夕食会で Joyce 氏は、南オーストラリア州は、もう決定を下す時期に来ていると強調した。決めなければ、Darwin が、中

中央オーストラリアの主要都市として Adelaide を追い越すだろう。

「これは二都の話であり、パリとロンドンのことではない。Adelaide と Darwin のことである。1つの都市が yes, yes, yes と言い続け、しかも成長を続け、成長計画を維持している。」と彼は言った。「Adelaide で同じ活力をもたなければ、Darwin と Adelaide の選択の結果として Darwin が中央オーストラリアの主要都市として Adelaide を追い越すだろう... ビジネスは北に行き、繁栄もそれに惹かれて行くことになる。「私たちは、そんなことを望んでいない。我々は、両者が繁栄することを望んでいる。そのためには、この領域は「yes」と言うエリアである必要がある。」と述べた。

詳細は、以下をご覧ください。 [Truth about Trade and Technology](#).

北海道農業者の会が遺伝子組換え（GM）作物の圃場試験の要望書を提出

北海道での遺伝子組換え（GM）作物の圃場試験の要望書が、地方独立行政人北海道立総合研究機構に提出された。

過去 19 年間 GM 作物の導入が農業生産者と消費者の間でホットなテーマであり、特に農業が最も重要な産業である北海道でそうである。しかしながら北海道の農業生産者は先進的農業技術、特に国の農業者と消費者の間でホットなテーマである。しかし、北海道の農家は特に遺伝子組換え（GM）作物の導入が阻害されている。GM 作物の利点は、世界の多くの場所で証明されているが、北海道の農業生産者は、原則的に GM 作物栽培を禁止する北海道条例によって、GM 作物を手にするにはできない。

20 年以上もの北海道農業生産者の GM 作物に関する研究や調査を経て、北海道農業者の会を設立し、4 月 7 日に地方独立行政人北海道立総合研究機構に対して ダイズ、トウモロコシ、テンサイを含む GM 作物の圃場試験を要求する要望書を提出した。これは、日本の農業生産者による初めての要望書であり、50 の農業生産者が署名し、署名者の所有農地面積は、約 1800 ヘクタールになる。

要望書の詳細は、日本バイオテクノロジー情報センター(NBIC)代表富田房男博士と以下のアドレスで連絡をとって下さい。 YRL05042@nifty.com

研究

遺伝子組換えマメ品種 EMBRAPA5.1 の栄養価は、相当する非遺伝子組換え品種と等価である

ゴールデンモザイクウイルス病は、ラテンアメリカでのマメの生産に影響する最も重要な病害の一つである。遺伝子組換えマメ品種 EMBRAPA5.1 は、2011 年にゴールデンモザイクウイルスに抵抗性を有する遺伝子組換えマメ品種としてブラジルで商業化が承認された。

ブラジル Embrapa Recursos Genéticos e Biotecnologia の Francisco Aragão 氏が率いるチームが 2 つの市販品種と交配、戻し交配から行ってそれらの栄養価を比較評価した。

結果は、遺伝子組換えマメ品種 EMBRAPA5.1 の栄養価は、相当する非遺伝子組換え品種と等価であった。また栄養成分の量も数種の市販品種と等価であった。

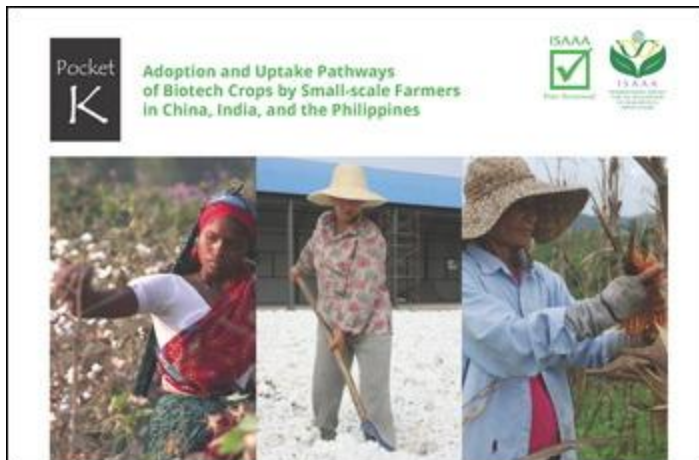
詳細は、以下のサイトにある全報告をご覧ください。 [Springer Link](#).

文献備忘録

遺伝子組換え作物の導入と採択経路

Pocket K No. 49 中国、インド、フィリピンの小規模農家による遺伝子組換え作物の導入と採択経路が、以下のサイトから取得できる。

<http://www.isaaa.org/resources/publications/pocketk/49/default.asp>.



Pocket Ks は知識のポケットシリーズで、作物バイオテクノロジー製品および関連する問題についてのパッケージ化された情報源である。これは、作物バイオテクノロジーにグローバルナレッジセンターによって開発された分かりやすいスタイルの PDF としてダウンロードできる簡単に共有・配布可能な情報源である。

バイオテクノロジー情報センター(BICs)から

日本の農業生産者が遺伝子組換え (GM) 作物を支持する要望書に署名

日本の北海道岩見沢と北見の 50 の農業生産者は、2015 年 3 月 26 日と 27 日にそれぞれフォーラムを開き、遺伝子組換え (GM) 作物を支持し、その圃場試験の要望書に署名した。指示しその彼らのフィールド試験、及び栽培をサポートするための請願書に署名した。農業生産者はまず、遺伝子組換え (GM) 作物、その利点、日本での可能性などの説明を受け、またフィリピンでの遺伝子組換えトウモロコシ栽培の経験について説明を受けた。このフォーラムは、日本バイオテクノロジー情報センター(NBIC)、北海道バイオ産業振興協会(HOBIA)、国際アグリバイオ事業団(ISAAA)の共催で行われ、農業生産者のリーダーや先進農業生産者に

科学に基づく正しい理解をしてもらうことと如何にして彼らの生の声をそして統合した行動をすることがこの国で遺伝子組換え作物を栽培することに繋がるかを目指した。

NBIC 代表の富田房男博士が遺伝子組換え (GM) 作物の現況と日本におけるその状況を説明し、ISAAA の Rhodora R. Aldemita 博士が世界及びフィリピンにおける遺伝子組換え (GM) 作物の状況とフィリピンでの遺伝子組換え (GM) 作物トウモロコシ導入を動かしたときの教訓を話した。農業生産者のリーダーである宮井能雅氏は、岩見沢市のフォーラムで遺伝子組換え (GM) 作物を含む新しい農業技術の導入に関する生の声を話した。また、農業生産者のリーダーである小野寺靖氏は、北見市のフォーラムでテンサイの栽培上の課題と遺伝子組換えテンサイを栽培したいとの意欲を示した。

農業生産者のリーダーである馬場広之氏は、要望書を行政府あるいは政府機構に速やかに提出するために多くの署名を集めるとの意気込みを示した。



詳細は、日本バイオテクノロジー情報センター(NBIC)代表富田房男博士と以下のアドレスで連絡をとって下さい。 YRL05042@nifty.com